

# 令和3年4月の凍霜害によるモモの果実生産への影響

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

## 1 部門名

果樹－モモ－気象災害

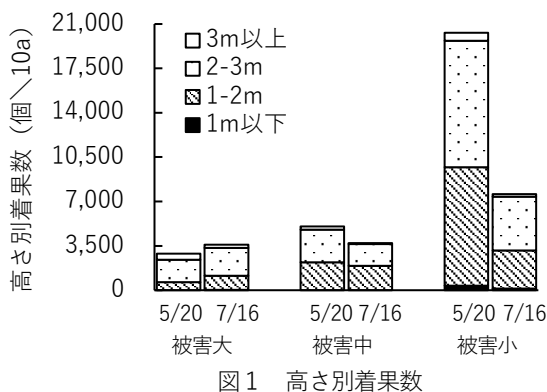
## 2 担当者名

尾形亜希子、安達義輝、佐久間宣昭

## 3 要旨

令和3年4月の低温により、モモの花器や幼果に甚大な凍霜害が発生した。そこで、伊達地方の現地ほ場において、モモの果実生産に対する凍霜害の影響を確認した。

- (1) 伊達地方において、被害程度の異なるモモ園地3カ所（各園地の被害割合は、被害大区が80%以上、被害中区が50～70%、被害小区が30%未満）を選定した。なお、調査園は、それぞれ、4月11日、12日及び27日に凍霜害に遭遇した。
- (2) 凍霜害が発生した園地では、結実が明らかになるまで摘果を遅らせ、上枝を中心に着果させるなど、着果数の確保に努めた。また、被害程度が大きい場合は、徒長枝の発生が多くなるので夏季せん定など新梢管理に努めた。
- (3) 初期着果量が極端に少なくなった被害大区は6月上旬、被害中区は6月中旬まで摘果を遅らせて上枝を中心に着果数を確保したところ、収穫期まで着果数が大きく減少することなく収穫に至った（図1）。
- (4) 被害大区、被害中区の着果数は、それぞれ被害小区に対し47%、49%であったが、果実肥大が良好であり、収量は64%、72%であった。なお、被害大区、被害中区の果実は、核割れなどの障害が多くなった（表1）。



注)被害大区で着果数が増加しているのは調査誤差による

表1 モモ「あかつき」の収量と障害果の発生割合について

調査区	10a換算 着果数	推定 果実重(g)	10a換算 収量(kg)	障害果発生率(%)			
				核割れ	裂果	サビ	その他
被害大	3,589	377	1,352	12	7	5	6
被害中	3,724	410	1,527	14	2	6	11
被害小	7,570	280	2,122	8	1	4	3

注1)調査は7月16日に行った。

注2)10a換算着果数は、1樹当たり樹冠占有面積から換算して算出。

注3)推定果実重は、被害大区、被害中区は果実体積指数(7月27日調査)、被害小区は出荷実績から算出。

注4)10a換算収量は、10a換算着果数と推定果実重から算出。

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3年度
- (2) 研究課題名 モモの凍霜害被害様相調査と対策技術の確立

## 5 主な参考文献・資料 なし